



恵庭市消防署が老人ホームで消防訓練 スモークマシーンで避難リスクの認知向上を



恵庭市消防署は5月29日、介護付き有料老人ホーム「ラ・デュース中島」(磯石博志施設長)で市内初となる発煙器を使用した消防訓練を実施しました。参加者は白い煙に覆われる中、火災時の煙の恐ろしさ

を疑似体験しました。

人体に無害な発煙器を使用する消防訓練は、火災時における避難リスクの認知向上を目的としています。また、煙の怖さを疑似体験することにより正しい避難方法が身に付き、冷静な判断力と確実な行動力を養うことが期待できます。

訓練は、1階スロープより出火したと想定。火災警報器が激しく鳴り響く中、施設職員2人が消火器を用いて初期消火を開始しました。

続いて、火の元付近の部屋から利用者を避難誘導。階段入り口にある防火シャッターが閉められ、2階利用者は手すりを使って慎重に階段を下り、シャッター横の避難ドアから脱出しました。白煙で視界が遮られる中、利用者は



煙を吸わないよう口や鼻をタオルで覆い、職員とともに外へと移動しました。

訓練後、小柴修消防司令は「実際の火災では更に黒い煙が上がり、強い臭いと有毒ガスが発生します。必ずハンカチなどを口に当て、煙を吸わないよう低い姿勢で避難してください。何よりも大事なのは火事を起こさないことです」とアドバイス。利用者は「煙で足元がよく見えず、階段を下りづらかった」と振り返りました。

(編集部 大谷)



防火管理者の資格を持つ磯石施設長は「今回の訓練で火災時の知識と対応を職員や利用者が共有できました。年内にも職員の少ない夜間に訓練を行う予定です」と話していました。

注目 読者投稿あしたの風……13ページ
営業担当イチオシ特集……19ページ